



# 富江の平山、1安打完封

【富江】打安点

②田中	2	0	0
④福山	2	0	0
⑥川口	3	1	1
⑤石山	3	2	0
①平山	3	0	0
③行実	3	1	1
⑦杉野	2	0	0
⑧松下	3	0	0
⑨野間	2	0	0
	23	4	2

【二回戦】=大橋：第2試合= 振球犠盗失残併 1時間23分

富江クラブ	100 000 1	2	3	2	1	1	0	3	1
上対馬クラブ	000 000 0	0	11	1	0	0	0	1	0

【三】川口、石山  
【二】石山

【評】富江の左腕・平山が見事なピッチングを見せた。切れのよいカーブとストレートのコンビネーション良く上対馬打線を手玉にとり五回まで一人の走者も出さず。六回二死後に山口の中前打と、七回に先頭木寺に四球を与えた走者のみ。この平山を盛り立てて打線も、初回四球の田中を二塁に置いて川口の左中間三塁打で先制。四回に石山のスクイズは実らなかったが七回に石山、行実の長短打でダメ押しの1点を加えた。

【上対馬】打安点

②武末	3	0	0
⑤木寺	2	0	0
①須川	3	0	0
⑥山崎	3	0	0
④武末	2	0	0
⑧大吉	2	0	0
⑦阿比	1	0	0
H3比田	1	0	0
⑨高田	2	0	0
③9山	2	1	0
	21	1	0

# 親和銀行が轟クラブを下す

【轟】打安点

⑤谷端	4	2	0
⑦平野	3	0	0
⑨東川	2	1	1
19伊東	1	0	0
⑥道副	3	0	0
④1久世	3	1	1
⑧中山	3	0	0
⑬前田	3	1	0
③9芦塚	2	0	0
94伊東	1	0	0
②藤康	2	0	0
	27	5	2

【二回戦】=大橋：第3試合= 振球犠盗失残併 1時間30分

轟クラブ	002 100 0	3	10	1	0	1	0	4	0
親和銀行	220 002 X	6	1	5	0	7	1	5	0

【本】久世  
【二】高柳

【評】親和銀行は立ち上がり四球を足場に高柳と黒石の長短打、さらに押し出し四球で2点。二回にも3安打に足を絡めた攻めで2点を挙げ、守ってはエース格の佐々田が三回一死まで7連続三振を奪う快調さ。親和の楽勝ペースかとみられた。

ところが打線が三回から代わった伊東章にピタリと抑えられたうえ佐々田が三回二死から死球を出してからおかしくなり内野失もあり2点。四回は荒金が久世に左翼席に叩き込まれ1点差に迫られる始末。六回に機動力を発揮して突き放したが親銀としては不満の残る試合。

【親和】打安点

③久住	2	0	0
④高柳	4	2	0
⑨黒石	3	1	2
⑦川崎	2	1	1
⑧上杉	3	0	0
8丸本	0	0	0
②米倉	3	1	0
⑥与那	1	0	1
5岩崎	0	0	0
①佐々	1	0	0
1荒金	2	0	1
⑤6酒井	3	1	1
	24	6	6

# 南串野球部、6回に勝負を決める

【南串】打安点

⑥豊島	3	0	0
⑤井上	3	1	2
②増田	3	0	0
①中村	3	1	0
⑦増田	3	1	0
7三宅	0	0	0
④辻	2	0	0
③原田	2	1	2
H3渡部	1	0	0
⑨増田	2	0	0
9松山	1	0	0
⑧山崎	3	0	0
	26	4	4

【二回戦】=大橋：第4試合= 振球犠盗失残併 1時間47分

南串野球部	020 006 1	9	1	6	2	8	0	5	0
千住スポーツクラブ	100 010 0	2	3	3	0	1	3	4	0

【三】中村、増田知、野原 【二】井上、田崎、池田博

【評】2-2で迎えた六回の南串は増田順の死球をきっかけに、千住の2番手宮崎の突然の乱れに乗じて一死満塁の好機をつかみ原田の左前適時打や、投ゴロ本塁悪送球、代わった堀口から井上の中越え2点二塁打などで一挙6点を挙げ勝負を決めた。

千住スポーツも長打力では見劣りしなかったが守備力に問題があり、ピンチにエラーが出て傷口を大きくした。

【千住】打安点

⑥田崎	3	1	1
⑬14野原	2	1	0
②藤山	3	0	1
⑦早田	3	0	0
⑤池田	3	1	0
⑨池田	2	0	0
H9永江	1	0	0
④1宮崎	1	0	0
1堀口	1	0	0
③岡	2	0	0
H田口	1	0	0
⑧千住	2	0	0
	24	3	2

# 安中クラブが7回にチャンス

【安中】打安点

②坂本	3	2	0
①大町	4	1	0
⑤堀本	2	2	2
⑧浜本	4	1	2
③大町	4	1	1
④石山	3	0	1
⑨吉田	2	0	0
H9出田	1	0	0
⑥吉中	3	0	0
⑦下田	3	0	0
	29	7	6

【二回戦】=大橋：第5試合= 振球犠盗失残併 1時間37分

安中クラブ	100 210 3	7	6	2	1	2	1	4	0
勝本北星	101 020 0	4	4	1	0	2	3	6	1

【二】坂本、尾形

【評】試合は滑り出しから点の取り合いとなり二転三転したが、五回を終って4-4の同点。もつれる様相をみせたが安中クラブが七回一死後、坂本の内野安打をきっかけに、死球や浜本、大町の連打で3点を奪い勝利を決定的なものとした。勝本は上位左遷が大町のタマをよく引きつけて打ち、打力ではむしろ安中を上回っていたが、守りのミスが痛く頼みの山口投手も最後に疲れが出て万事休した。

【勝本】打安点

②小畑	4	1	0
④大久保	4	2	0
⑤尾形	4	2	2
①山口	4	2	2
⑥久田	2	0	0
③中村	3	0	0
⑦大久保	2	0	0
7松川	1	0	0
⑨白川	3	0	0
⑧篠崎	3	1	0
	30	8	4

# 天満タクシー、エラーで自滅

【舩 田】打安点

④立石拓	4	2	0
②舩田好宏	4	0	0
⑤立石	4	0	0
⑥古川	4	0	0
⑧馬込	3	0	0
⑦野上	3	2	0
⑨中村	2	0	0
③舩田友	2	1	1
①舩田恵	1	1	2
		27	6 3

【二回戦】=三菱：第1試合= 振球犠盗失残併 1時間45分

舩田グループ	012 102 0	6	1	2	2	4	1	5	0
天満タクシー	110 002 0	4	4	4	0	4	6	4	0

【三】野上、東賢 【二】野上、舩田恵、原田、野崎  
 【評】舩田が天満のエラーに乗じて逆転勝ちした。1-2で迎えた三回、舩田は四球とエンドラン成功で無死一二塁とし重盗が捕手と二塁手の連続悪送球を誘い二塁生還して難なく逆転。四回にもエラーで出塁した野上をスクイズで迎え入れ、六回には2本の長打と2敵失でダメ押し2点を挙げた。天満は初回、足を使った攻撃で先制。六回には2長打などで2点差まで迫ったがそれまで。6失策で自滅した形だった。

【天 満】打安点

⑥中島	3	1	0
⑨山島	4	1	0
④3箴	3	0	0
③5東賢	3	1	1
⑧小田	3	0	0
⑤坪倉	1	0	0
4東祐	0	0	0
②野崎	3	1	2
①原田	1	1	0
1久留	2	0	0
⑦大場	2	0	0
		25	5 3

# 県経済連が3回に一挙5点

【島 ク】打安点

④5松本	3	2	0
⑧山浦	2	2	0
⑥田中	3	0	0
③米原	2	0	1
⑤4松山	2	0	0
②浜田	3	1	0
①柳本	1	0	1
H山口	1	0	0
⑦平松	2	0	0
H幸谷	1	0	0
⑨度島	2	0	0
		22	5 2

【二回戦】=三菱：第2試合= 振球犠盗失残併 1時間37分

島クラブ	010 001 0	2	4	2	2	0	1	3	0
県経済連	005 000 X	5	0	1	0	4	0	2	0

【本】岩崎 【二】富永、尾崎、浜田  
 【評】二回まで簡単に打ち取られていた県経済連が三回に打者8人を送る5本の長短集中打を浴びせ一挙5点を挙げて逆転し逃げ切った。この回の経済連は尾崎、山口の長短打に盗塁で二三塁とした二死後に谷口の中前2点打。岩崎が右翼ポール直撃の2ラン。さらに富永の二塁打などで追加点を奪った。  
 島クラブは柳本の犠飛で先制すると、三回には連打でエースを引きずり出して勢いに乗ったが後続なく、反撃は六回の1点にとどまった。

【経済連】打安点

⑤中田	2	0	0
④谷口	3	1	2
⑧岩崎	3	1	2
②富永	3	1	0
③沢村	2	0	0
R3野口	1	0	0
⑨白水	2	0	0
H9三崎	1	0	0
①松崎	0	0	0
1早川	3	0	0
⑦尾崎	2	2	0
⑥山口	2	1	0
		24	6 4

# 生月体協2点守り切る

【大 村】打安点

⑧西村	1	0	0
H吉沢	1	0	0
④山田	1	0	0
①黒岩	3	1	0
②高浜	3	0	0
③久保	3	0	0
⑦森	3	0	0
⑤浦	3	0	0
⑥横田	3	1	0
⑨小川	2	1	0
H森	0	0	0
		23	3 0

【二回戦】=三菱：第3試合= 振球犠盗失残併 1時間10分

大村市役所	000 000 0	0	2	4	1	0	1	7	0
生月体協	000 200 X	2	3	0	0	1	1	2	0

【本】桑崎 【三】小川  
 【評】淡々と試合は進み0-0で迎えた四回、生月体協は4連続長短打で2点を挙げて均衡を破り、これがそのまま決勝点になった。まず初安打が桑崎の右中間を越す本塁打となり1点。続く山中、川崎、山浦の3連続安打で貴重な2点目を挙げた。守っては川崎が散発3安打に抑えた。  
 大村市役所は五回に小川の三塁打と敵失で一死一三塁とした好機を生かせなかったのは痛い。

【生 月】打安点

④山本	3	0	0
⑧大石	3	1	0
⑥桑崎	3	1	1
②山中	3	1	0
①川崎	2	1	0
⑤山浦	2	1	1
③松山	2	1	0
⑨宮崎	2	0	0
⑦坂口	2	0	0
		22	6 2

# 松浦市役所サヨナラ勝ち

【川 棚】打安点

⑧堤	4	1	0
④高島	3	0	0
⑤犬塚	2	0	0
⑦藤尾	3	1	1
②尾田	3	1	0
⑥3琴岡	3	0	0
①鍛冶	1	1	1
③堀池	1	0	0
H6通	2	1	0
⑨池田	2	1	0
H9福	1	1	0
		25	6 2

【二回戦】=三菱：第4試合= 振球犠盗失残併 1時間31分

川棚東芝セラミックス	000 200 21	5	7	4	0	2	4	4	0
松浦市役所	001 101 12x	6	3	0	1	1	2	6	0

（延長8回一死満塁制）【本】辻田 【三】藤尾 【二】尾田  
 【評】4-4の同点で延長八回の無死満塁制。松浦は左前打で1点を取られたその裏に辻田が右中間二塁打(参考記録)でサヨナラ勝ちした。  
 2-2同点の六回の松浦は連続安打と犠飛でリードし逃げ切るかと思えたが七回に四球を与えた後、左前打を後逸して2点を許し川棚に逆転された。その裏の一死後に辻田の左中間越え本塁打で同点として延長戦に持ち込んだ。

【松 浦】打安点

④川上	4	1	0
①辻田	4	1	1
⑦吉田	4	0	0
②末永	4	0	0
⑧浜崎	3	1	0
⑥久保田	3	2	0
⑤伊藤	3	2	0
⑨小林	2	1	1
H3大久保	0	0	1
③9石川	3	0	0
		30	8 3

大会第二日の29日は強い風の吹く肌寒いなか、大橋球場で準々決勝4試合が行われた。第1試合は親和銀行が足を使った攻撃で試合巧者ぶりを見せつけ富江クラブに7-0コールド勝ち。第2試合は南串野球部が少ない好機に相手のまづいプレーも手伝って確実に得点し4-0で安中クラブを封じた。

第3試合は途中、降雨に見舞われるなか行なわれ、県経済連が敵失にも助けられ得点を重ね六回に2本塁打でとどめを刺して7-0で舛田グループにコールド勝ち。第4試合は生月体協が試合をうまく進め、小刻みに点を加えて松浦市役所を4-0で下した。

# 親銀が投打に圧倒 富江クラブ ノーヒット

【評】親和銀行が面白いように走った。塁に出た走者は全員盗塁を決め四回までに11個。この足を生かした攻撃で四回までに6点を奪い五回に黒石の本塁打で7点目を挙げてコールド。守っては荒金と志賀の継投で無安打に抑えた。初回の親和は四球走者を二塁に置き黒石の左前打でまず1点。二三盗を決めた黒石が捕手悪送球を誘って生還。さらに中前打の川崎も二三盗し丸本の当たり損ねの捕前ゴロの間に3点目。三回にも四球の久住呂の二三盗を足掛かりに2短長打と5盗塁で2点。五回は代わった平山から黒石が左翼席に本塁打して試合を決めた。

富江は全くいいところがなく親銀の荒金から1四球を選んだだけ。ほかはいずれも詰まらされ外野飛球は1個だけだった。

振球犠盗失残併 53分										
富江クラブ	000 00	0	4	1	0	0	0	1	0	【本】黒石
親和銀行	302 11x	7	3	3	1	11	0	2	0	【二】丸本



親和銀行5回の攻撃で、黒石がコールド・ゲーム成立のサヨナラ本塁打を放つ。

【富江】打安点	28	田中	2	0	0
④	福山	2	0	0	
⑥	川口	2	0	0	
⑤	石山	2	0	0	
⑦	1平山	2	0	0	
③	行実	0	0	0	
H3	戸田	1	0	0	
①	17松倉	2	0	0	
⑥	松下	1	0	0	
2	片町	0	0	0	
⑨	松野尾	1	0	0	
15 0 0					
【親和】打安点	③	久住呂	1	1	0
⑤	岩崎	3	0	0	
②	黒石	3	3	3	
⑦	川崎	2	1	0	
⑧	丸本	2	1	2	
⑥	酒井	2	0	0	
⑨	田中	1	0	0	
①	荒金	1	0	0	
1	志賀	0	0	0	
④	高柳	2	0	0	
17 6 5					

# 好機を生かした南串 安中クラブに 守備の乱れ

【安中】打安点	⑥	森本	3	0	0
①	大町	3	1	0	
⑤	堀本	3	0	0	
⑧	浜本	3	2	0	
②	坂本	3	0	0	
③	吉田	3	0	0	
⑦	出田	2	0	0	
④	池田	2	0	0	
⑨	古瀬	1	0	0	
9	石山	1	0	0	
24 3 0					

【評】南串は二回に四球と遊ゴロ失で一死一三塁の好機をつかみ二盗を凶った辻が塁間に挟まれたが挟殺プレーの間に三走の増田知が生還し先制。四回は増田知、辻の安打と四球の二死満塁にボークにより追加して優位に試合を進めた。

安中クラブは六回の2失点にしても内野守備の乱れから始まったものであり自滅の形。攻めても三回二死から大町の三塁打、四回は先頭の浜本が内野安打で出て二盗も決めたが後続なく中村-増田順の好リレーの前に完封された。

【準々決勝】=第2試合= 振球犠盗失残併 1時間36分										
安中クラブ	000 000 0	0	2	4	1	4	0	7	0	【三】大町
南串野球部	010 102 X	4	3	1	0	1	1	4	0	

【南串】打安点	⑥	豊島	4	0	0
⑤	井上	4	0	0	
②	1増田順	3	2	0	
①	2中村	3	0	0	
⑦	増田知	2	1	0	
⑧	原田篤	2	1	0	
④	辻	3	1	0	
③	原田秀	1	0	1	
⑨	山崎	3	1	1	
25 6 2					

# 県経済連が長打攻勢 舛田、痛いエラーに泣く

【舛田】打安点	④	6立石拓	3	0	0
②	舛田好	3	0	0	
⑤	立石宏	2	0	0	
⑥	3古川	1	0	0	
⑧	馬込	2	0	0	
①	7野上	2	0	0	
⑨	中村	2	0	0	
③	舛田友	2	1	0	
3	宝亀	0	0	0	
⑦	1舛田恵	2	0	0	
19 1 0					

【評】序盤に2併殺を食うピリッとしめない経済連だったが相手の失策にも助けられて好機に得点を重ね、最後は中田と岩崎の連続本塁打で試合を決め六回7-0でコールド勝ちした。

経済連は二回、2四球走者を二塁に置いて尾崎の中前打で1点。続く山口の投ゴロ-塁悪送球の間に2点目を挙げた。三回は二死から沢村の内野安打と早川の左越え三塁打、さらに白水の一ゴロ失で難なく加点した。五回にもエラー絡みで1点を加えた六回一死後に、中田が左翼席本塁打、二死後に岩崎の中越え打がランニングホームランとなって決着をつけた。

舛田は2併殺を取る好プレーを見せながらも手痛いところでエラーを連発。攻めても早打ちが目立って早川を攻略できず1安打のみだった。

【準々決勝】=第3試合= 振球犠盗失残併 1時間44分										
舛田グループ	000 000	0	3	1	0	0	5	2	2	【本】中田、岩崎
県経済連	022 012x	7	2	4	1	1	0	6	0	【三】早川

【経済連】打安点	⑤	中田	3	1	1
④	谷口	3	1	0	
⑧	岩崎	4	1	1	
②	富永	3	0	0	
③	沢村	2	1	0	
①	早川	2	1	1	
⑨	白水	2	1	1	
⑦	尾崎	3	1	1	
⑥	山口	1	0	0	
6	野口	2	0	0	
25 7 5					

# 生月が小刻み得点 エース川崎 松浦市役所を完封

【生月】打安点

④山本	2 0 0
⑧大石	3 0 0
⑥桑崎	2 1 0
②山中	2 1 1
①川崎	3 0 0
⑤山浦	2 1 1
H5船原	1 0 0
③松山秀	3 0 0
⑨宮崎	0 0 1
H池永	1 0 0
9松山真	0 0 0
7坂口	2 1 0
21 4 3	

【松浦】打安点

④川上	1 0 0
⑥2久保田	3 0 0
⑤辻田	3 0 0
⑦吉田	3 1 0
①浜崎	3 1 0
②6伊藤	2 0 0
③大久保	3 0 0
⑨小林	3 0 0
⑧石川	2 0 0
23 2 0	

【準々決勝】=第4試合= 振球犠盗失残併 1時間37分

松浦市役所	000 000 0	0	8	2	1	0	3	5	1
生月体協	011 110 X	4	2	4	1	6	1	4	0

【二】山浦、桑崎

【評】生月は二回一死後、川崎が三ゴロ悪送球で生き二三盗し山浦の三ゴロで先制。三回は内野安打と2四球の二死満塁に山中が内野安打した。四回には無死二塁打の山浦が右飛で三進し、宮崎の左犠飛で1点といった具合に小刻みながら得点を重ねた。対する松浦市役所は川崎の速球に押され三回までノーヒット。四回に吉田と浜崎に連打が出、伊藤が送って二三塁としたが打線が下位だったこともあって実らなかった。ここで一発出てタイにしていたら、また違った局面になっていたかも知れない。

大会第最終日は準決勝と決勝の3試合が行われた。準決勝第1試合は前年度優勝で4連覇を狙う10年連続17回目出場の親和銀行と、選手権初出場ながら今季の西日本2部県代表として中央大会初出場で準優勝した南串野球部の一戦は、5-0で親銀の貫禄勝ち。第2試合は3年ぶり二度目出場の県経済連と、2年ぶり二度目の県選手権の生月体協。どちらも初の決勝進出を賭けて戦ったが、二回の満塁本塁打などで5点を奪った経済連が、生月の終盤の追い上げを振り切って5-3

で辛勝。初の決勝戦進出した経済連は3年前、初出場の準々決勝で親銀と対戦し、延長八回一死満塁制で0-3敗戦の雪辱を期して臨んだが、またも0-0で延長戦。経済連の早川、親銀の佐々田両エースとも球威がおとろえず規定の延長11回も終って、12回は一死満塁制の特別延長戦。先功の親銀は三振と三走を三本間に挟殺で無得点。経済連は4番の富永が左翼フェンス直撃のサヨナラ打を放って、京都国体三位の親和銀行を倒して4連覇を阻止した。

# 親和銀行一挙5点 3回、打者11人の猛攻

【準決勝】 振球犠盗失残併 1時間50分

南串野球部	000 000 0	0	1	1	1	0	1	4	0
親和銀行	005 000 X	5	1	8	2	1	0	10	0

【二】豊島 荒金

【評】親銀が三回に打者11人を送って一挙5点を奪って試合を決めた。2四球と内野安打で塁を埋めた後、丸本が2点中前打。続く川崎も2点右前打。さらにバントヒットと四球で再び満塁とし竹山の押し出し四球で難なく5点目。親銀は前日の試合で盗塁11と持ち前の機動力野球を見せたが、この試合は毎回走者を出すも盗塁はわずか1。バント失敗や牽制アウトなどもあり今ひとつピリッとしなかった。

南串野球部は三回二死後、豊島の左中間二塁打と四球で好機を迎えたが代わった荒金に左飛に討ち取られた。その後も荒金を攻略できず七回にやっと荒金をつかまえ、2安打で粘りを見せたが後が続かなかった。

【南串】打安点

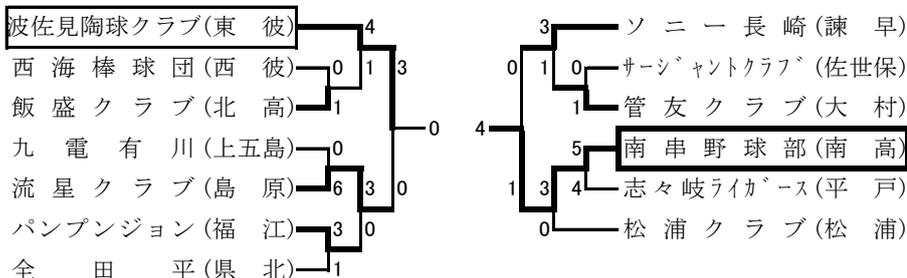
⑥豊島	3 1 0
⑤井上	2 0 0
②1増田順	3 0 0
①2中村	3 1 0
⑦増田知	3 1 0
⑧原田篤	2 1 0
④辻	3 0 0
③原田秀	3 0 0
⑨山崎	2 0 0
24 4 0	

【親和】打安点

③久住呂	2 0 0
⑤竹山	2 1 1
⑨黒石	2 0 0
⑦上杉	2 0 0
6与那嶺	0 0 0
H6岩崎	1 0 0
②米倉	4 2 0
⑧丸本	4 2 2
⑥酒井	0 0 0
H7川崎	2 1 2
①志賀	1 0 0
1荒金	2 1 0
④高柳	1 1 0
23 8 5	

## 南串野球部の第10回西日本2部大会・準優勝までの戦績

県大会 4.10～・波佐見町



(西日本大会 5.28～・和歌山県)

- 【一】 4-1 ジャガーズ(広島)
  - 【二】 3-2 和歌山郵便局(開催地)
  - 【準々】 6-2 菱興ブロックス(兵庫)
  - 【準】 3-1 キャラ(山口)
  - 【決】 0-2 沖縄電力(沖縄)
- [延長]

# 経済連の中田が満塁アーチ 生月、終盤の反撃及ばず

【経済連】打安点

⑤中田	4	1	4
④谷口	3	1	0
⑧岩崎	3	0	0
②富永	3	1	0
③沢村	2	1	0
R3野口	1	0	0
①松崎	3	1	0
⑨白水	3	0	0
⑥山口	2	1	1
⑦三崎	3	0	0

27 6 5

【準決勝】 振球犠盗失残併 1時間39分

県経済連	050 000 0	5	5	0	1	0	3	2	0
生月体協	000 003 0	3	5	1	0	0	2	5	1

【本】中田

【評】両軍の先発投手はストライクが先行し上々の立ち上がり。経済連は二回一死後に沢村と松崎が連打。白水の投ゴロは三塁封殺かと思われたがベースから三塁手の足が離れてセーフ。すかさず山口がスクイズ、捕手のタッチをかわし三走沢村が生還。ベースにタッチすればアウトのタイミングだったが…。二死後に中田は左邪飛。ところが落球して命拾いの打ち直した打球は左翼席で弾み満塁アーチとなった。

五回まで2安打に抑えられていた生月は六回に反撃。坂口が右前安打で口火を切り、一死後に四球と敵失で満塁。暴投で1点挙げ、山中の中前打で二者生還し2点差と詰め寄った。追い上げムードの生月は最終回一死後に敵失と坂口の安打で一二塁。山本の一ゴロで二三塁として一打同点の好機を作ったが、捕邪飛で万事休した。それにしても生月の粘りは見事で、最後まで目が離せぬ緊迫した試合となった。

【生月】打安点

④山本	4	0	0
⑧大石	2	1	0
H池田	0	0	0
8池永	1	0	0
⑥桑崎	3	0	0
②山中	3	1	2
⑤1川崎	3	0	0
③5山浦	3	1	0
⑨松山真	3	0	0
①宮崎	0	0	0
3松山秀	2	0	0
H船原	1	0	0
⑦坂口	3	2	0

28 5 2

## 県経済連が初優勝

# 延長12回サヨナラ 親和銀行の4連覇を阻止

【決勝】 振球犠盗失残併

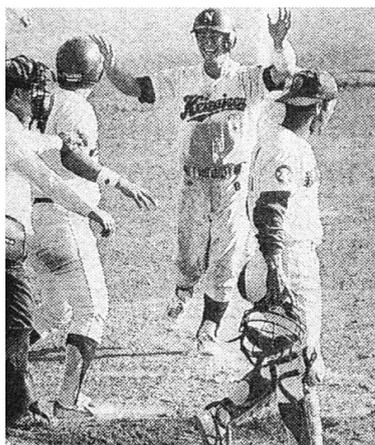
親和銀行	000 000 000 000	0	6	2	0	0	0	2	1
県経済連	000 000 000 001x	1	8	2	0	0	0	2	0

(延長12回は一死満塁制) 2時間29分

【評】試合は経済連・早川、親銀・佐々田両エースの投げ合いで始まった。共に先頭打者を三振に打ち取るなど思い切りのいい投球を見せ、延長11回までに出了安打は親銀1に経済連2本。両投手とも直球に伸びがあり変化球の切れも良くていねいにコーナーを突いて詰ませ外野に飛んだ球は親銀3に経済連1本のみという見事な投手戦。

最初の好機は二回の経済連。先頭が四球も沢村は併殺打。親銀も四回に四球の久住呂が自慢の足を見せたが二盗死。六回には酒井の四球と佐々田の右前打で無死一二塁の好機を迎えたが、高柳のバントを早川がうまくさばいて三封。久住呂の三ゴロで二死一三塁としたが竹山は三振。一方の経済連も六七回に尾崎と谷口の安打で好機をつかむが後続がなかった。

大会規定で延長12回より一死満塁制の親銀は川崎が得意の叩きつける打撃でエンドランを狙ったが空振り三振。飛び出した久住呂は三本間に挟殺され併殺。その裏の経済連は五回にも中堅へ大きなライナーを放っている4番の富永が打席へ。佐々田の高目の直球をジャストミート、左翼フェンス直撃し劇的なサヨナラ打。



延長12回裏一死満塁、富永のサヨナラ安打で中田が歓喜の生還

【親和】打安点

③久住呂	3	0	0
⑤竹山	4	0	0
②黒石	4	0	0
⑦川崎	4	0	0
⑨岩崎	3	0	0
9上杉	1	0	0
⑧丸本	4	0	0
⑥酒井	3	0	0
①佐々田	4	1	0
②高柳	3	0	0

33 1 0

【経済連】打安点

⑤中田	4	0	0
④谷口	4	1	0
⑧岩崎	4	0	0
②富永	3	0	0
③沢村	3	0	0
①早川	4	0	0
⑨白水	4	0	0
⑥野口	4	0	0
⑦尾崎	3	1	0

33 2 0

【表彰選手】

最優秀選手賞	富永 勝成(経済連)
最優秀投手賞	早川 政也(経済連)
打撃賞	黒石 有(親銀)
敢闘賞	佐々田俊則(親銀)

### ◆県経済連・大川功弘監督の話

これまで公式試合で一度も勝ったことがない親和銀行を破っての優勝だけにうれしい。決勝戦は投手戦になると思っていたので守りのミスをしないように注意した。早川がよく投げてくれた。最後(一死満塁制)は富永がいい当たりをしており、スクイズなど考えず一打に託した。今後は叩きつける打撃と走塁をさらに練習しV2を目指したい。(写真はナインに胴上げされる大川監督)



昭和63年に開催されたその他の競技会の戦績 ① (一般のみ)

天皇賜杯第43回県予選 5.21～佐世保

平戸クラブ(平戸)	1
中村クラブ(大村)	5 1
長崎県経済連(長崎)	4 1
千住スポーツクラブ(諫早)	0 2
池島鉱業所(西彼)	9 1
親和銀行(佐世保)	9 4
厳原ワイズ(対馬)	0 9
崎山クラブ(福江)	0 3
安中クラブ(島原)	1 13
鴻ノ巣クラブ(東彼)	3 1
九電相浦(佐世保)	1 5
三菱重工長崎(長崎)	2 4
小長井クラブ(北高)	3 3
生月体協(県北)	7 1
電源開発(松浦)	0 5
南串野球部(南高)	3 0
舛田グループ(上五島)	0

天皇賜杯全日本大会 9.9～・愛知県

【一】親和銀行 2-8 動燃東海(茨城)

第43回国体(成年2)予選 7.3～上五島

天満タクシー(佐世保)	3
長崎メッツ(東彼)	1 1
有明町クラブ(南高)	0 0
ジャガーズ(大村)	6 1
長崎県経済連(長崎)	3 3
平戸クラブ(平戸)	1 1
舛田グループ(上五島)	0 0
三菱重工長崎(長崎)	8 1
全江迎(県北)	4 4
中興化成工業(松浦)	4 0
諫早クラブ(諫早)	3 3
海自造修所(佐世保)	0 0
富江クラブ(福江)	3 1
池島鉱業所(西彼)	7

三菱重工長崎は九州国体で敗退。

国体軟式野球はこの年から2巡目に入り少年二部がなくなり、成年一部と二部になった。京都国体では九州ブロックから一部が4チーム、二部からは2チームの出場できたが、次年の北海道国体から壮年の部が新設され、3部門とも九州からは2枠と狭き門になる。

親和銀行は成年1部単独推薦で九州国体に出場し熊本を破って本国体に出場して、第三位に輝いた。

京都国体・成年1部(28チーム)10.16

- 【一】 4-0 東北パイオニア(山形)
- 【二】 3-1 光工業クラブ(京都)
- 【準々】 2-1 植野陶器クラブ(高知)
- 【準】 0-4 浩洋会田中病院(宮崎)
- 【三位】 4-2 日本電気山梨工場

三位決定戦は無死満塁制の延長戦で代打の上杉がサヨナラ満塁本塁打。

第11回九連会長杯予選 4.9～島原

親和銀行(佐世保)	7
平戸クラブ(平戸)	2 0
諫早クラブ(諫早)	1 3
松浦市役所(松浦)	0 0
鴻ノ巣クラブ(東彼)	8 2
小浜クラブ(南高)	9 4
轟クラブ(北高)	3 1
御厨クラブ(松浦)	2 1
生月体協(県北)	2 2
海自造修所(佐世保)	6 0
長崎県経済連(長崎)	5

親和銀行は九連会長杯で2度目の優勝

第10回西日本1部県予選 5.14～諫早

ファイヤーバード(上五島)	0
佐世保市水道局(佐世保)	2 0
崎山クラブ(福江)	0 1
N T T長崎(長崎)	3 2
中村クラブ(大村)	2 0
小長井クラブ(北高)	6 4
九電諫早営業所(諫早)	5 1
全江迎(県北)	0 0
愛野町体協(南高)	2 0
大瀬戸クラブ(西彼)	1 1
中興化成工業(松浦)	0 0
安中クラブ(島原)	0 3
波佐見ジャイアンツ(東彼)	1 3
島クラブ(平戸)	0

西日本1部大会 6.24～・熊本県

- 【一】 5-2 山中町体協野球部(鳥取)
- 【二】 2-8 山陰合同銀行(島根)

第10回西日本2部県予選 4.10～波佐見

波佐見陶球クラブ(東彼)	4
西海棒球队(西彼)	0 1
飯盛クラブ(北高)	1 3
九電有川(上五島)	0 0
流星クラブ(島原)	6 3
パンポンジョン(福江)	3 0
全田平(県北)	1 0
ソニー長崎(諫早)	3 4
サーシャントクラブ(佐世保)	0 1
管友クラブ(大村)	1 0
南串野球部(南高)	5 1
志々岐ライカース(平戸)	4 3
松浦クラブ(松浦)	0

西日本2部大会 5.28～・和歌山県

- 【一】 4-1 ジャガーズ(広島)
- 【二】 3-2 和歌山郵便局(開催地)
- 【準々】 6-2 菱興ブロックス(兵庫)
- 【準】 3-1 キャラ(山口)
- 【決】 0-2 沖縄電力(沖縄)

昭和63年に開催されたその他の競技会の戦績 ② (一般のみ)

高松宮賜杯第32回 1部 6.13~大村

九電諫早営業所(諫早)	5
田川スラッカーズ(東彼)	1 7
小長井クラブ(北高)	6 10
バンビーズ(県北)	0 0
舩田グループ(上五島)	2 1
豊玉クラブ(対馬)	3 2
中興化成工業(松浦)	2 1
福江球友会(福江)	0 1
佐世保市水道局(佐世保)	2 2
N T T 長崎(長崎)	5 4
中村クラブ(大村)	0 0
池島鋳業所(西彼)	1 3
ロノ津ヤンガス(南高)	1 2
島クラブ(平戸)	7 3
安中クラブ(島原)	1

高松宮賜杯第32回 2部 6.11~松浦

パンプリンジョン(福江)	5
波佐見センターズ(東彼)	6 3
佐世保市役所(佐世保)	9 13
農協ベアーズ(諫早)	1 1
豊玉コメッツ(対馬)	1 4
島原市役所(島原)	6 6
全田平(県北)	8 0
管友クラブ(大村)	3 2
松浦市役所(松浦)	1 5
奈良尾漁船団(上五島)	4 2
白山クラブ(平戸)	0 3
西部ガス(長崎)	2 2
国見町クラブ(南高)	5 0
西海棒球队(西彼)	1 6
飯盛クラブ(北高)	5

第40回県民体育大会 11.5~諫早

(諫早)千住スポーツクラブ	0
(島原)島原市役所	5 2
(佐世保)佐世保市役所	0 9
(北松)生月体協	1 8
(大村)大村市役所	2 1
(五島)オール有川	1 1
(南高)南串野球部	4 2
(北高)小長井クラブ	0 0
(長崎)長崎県共済連	7 1
(福江)増山建設	0 3
(老岐)勝本北星	0 1
(平戸)平戸クラブ	1 3
(西彼)大島造船所	0 0
(松浦)中興化成工業	1 1
(東彼)波佐見陶球クラブ	0 2
(対馬)豊玉クラブ	6

◆九州ブロック(宮崎県)で敗退◆

◆九州ブロック(宮崎県)で敗退◆

高松宮賜杯全日本軟式野球大会について

昭和21年8月に全日本軟式野球連盟が設立され、その組織も着実に確立されると加盟チームも年々増加していったが、多くのチームの間には技量の差が当然のように出てきた。

そこで連盟では昭和25年からチームの登録をA、B、Cの級別に分けて各都道府県では級別の大会を持つように指導した。この結果、各支部では従来的一般大会(級別に関係なく)のほかに、各級別大会とチームのレベルに応じた大会を実施するようになった。

30年には北海道から九州までの9ブロックでB級とC級のブロック大会が一斉に開始された。32年にはB級とC級の第1回大会が群馬県で開催され、名称を『全日本選抜軟式野球大会』とした。同時にB級を1部、C級を2部とし参加チームは両部とも各ブロック代表と開催地の計10チームで始まった。

この競技人口の多い1部と2部大会発展のため、34年に高松宮宣仁親王殿下から高松宮杯が下賜され、この年の第3回北海道大会から優勝チームに授与されるようになった。

このため大会の名称も改められ、38年第7回福島大会から『高松宮賜杯全日本軟式野球大会』と呼ばれるようになった。

40年の第9回京都大会から参加チームが1部、2部とも16(九州から2)になり、さらに平成元年の第33回大会からそれぞれの部を32チームと倍増し、従来は両部が同一開催地であったのを分離開催とした。

九州枠(沖縄は単独)は7県のうち4で、7年に一度回ってくる九州ブロック大会の開催県は県代表がそのまま全国へ。残り6県で3枠を争っている。但し九州地区で全国大会開催の場合は開催県から4。残り5県で4枠の8チーム(沖縄除)参加となるが、長崎県で開催するのは球場の問題から夢物語である。

昭和63年第32回大会までに全国大会の土を踏んだチームの戦績は、

回	年度	部	開催地	県代表チーム	戦績	相手
2	33	2	大阪	相浦食販	【一】 10-0	北海道
					【二】 1-0	大阪
					【準】 0-2	栃木
4	35	2	徳島	長崎西高クラブ	【一】 0-2	山形
					【二】 0-8	埼玉
#	42	2	愛知	浜崎水産	【一】 4-1	岐阜
					【二】 0-8	埼玉
#	43	1	岩手	諫早クラブ	【一】 0-2	愛知
		2	〃	海上自衛隊大村	【一】 0-7	岐阜
#	44	2	愛媛	中村クラブ	【一】 10-1	長野
					【二】 1-6	山口
#	48	1	島根	有明町クラブ	【一】 2-4	静岡
					#	52
【二】 8-4	大阪					
【準】 7-4	鳥取					
【決】 3-1	静岡					
#	54	2	東京	轟クラブ	【一】 3-0	東京
					【二】 1-0	北海道
					【準】 2-4	広島
#	56	2	岐阜	ファイヤーバード	【一】 5-8	秋田
					#	59
【二】 3-0	兵庫					
【準】 4-0	山口					
【決】 0-1	埼玉					

1部=3大会(3勝3敗) 準優勝=1回  
2部=8大会(10勝7敗) 優勝=1回、ベスト4=2回